

つなぐ つながる ひろがる
身近なまちづくり

まちづくり
役立ち帳

茨木市 都市整備部 都市政策課

茨木市では、平成19年6月に、茨木市の都市計画に関する基本方針を示す「茨木市都市計画マスタープラン」を作成しました。

都市計画マスタープランは、茨木市の将来像としての「まちづくりビジョン」、まちづくりビジョンを実現するための「都市づくりプラン」、そして地域のまちづくりを進めるための「市民主体のまちづくりを支える」の3つの構成でとりまとめています。

この都市計画マスタープランで示したまちづくりを実現させていくためには、市民のみなさんが暮らす身近な地域でのまちづくりが大切になってきます。

そこで、市民のみなさんが身近なまちづくりに取り組む手助けとなるよう、この「まちづくり役立ち帳」を作成しました。



茨木市都市整備部
都市政策課

まちづくり役立ち帳

02 地域で取り組む 身近なまちづくり

- ① 地域で一斉打ち水
- ② 商店街のにぎわいづくり
- ③ まちかどの清掃
- ④ 地域で取り組む行事
- ⑤ まちの安全を守る
- ⑥ まちのルールをつくる
- ⑦ まちを花いっぱい!

10 まちづくり豆知識① まちづくりって何?

11 まちづくり豆知識② 都市計画とまちづくり

12 つなぐ、つながる、ひろがる
まちづくりのポイント

16 まちづくりを始める前にやっておきたい
まちづきあい

18 まちづくり豆知識③ 地域主体のまちづくり



19 まちづくりに役立つ 七つ道具

- その一 まち歩き
- その二 ワークショップ
- その三 ラウンドテーブル
- その四 ニュース
- その五 イベント
- その六 専門家
- その七 市民に役立つ所

34 まちづくり豆知識④ 都市計画マスタープラン

35 身近なまちづくりのための
地区別まちづくり構想

36 みんなでつくる
まちのルールづくり

40 資料 まちづくりの支援メニュー

身近なまちづくり

身近なまちづくりは、市民のみなさんが暮らしている「まち」を、より暮らしやすい「まち」へと、育てていく取り組みです。

身近なまちづくりは、地域に暮らす一人ひとりの想いを地域のみなさんの思いへと、つなぐことから始まります。

地域に暮らすみなさんが考え、地域の個性を活かし、地域の実力で実現する。それが、身近なまちづくりです。

身近なまちづくりは、新しく始める取り組みだけではなく、地域自治会や小学校区で、これまでから取り組まれているものも、身近なまちづくりの一つです。

身近なまちづくりを実感していただくために、茨木市で取り組まれていることを入れて、いくつかの事例を紹介します。

身近なまちづくり事例紹介

- ① 地域で一斉打ち水
- ② 商店街のにぎわいづくり
- ③ まちかどの清掃
- ④ 地域で取り組む行事
- ⑤ まちの安全を守る
- ⑥ まちのルールをつくる
- ⑦ まちを花いっぱいにする！

紹介している事例の内容は、平成19年6月現在のものです。

地球温暖化対策として、古くからの日本の風習「打ち水」が見直され、全国各地の地域で「打ち水」の取り組みが行われています。

打ち水を行う時期は、子どもたちの夏休みの時期にあたりますので、日本の風習や環境を学ぶきっかけづくりにつながっています。



春日商店街や平田台の農業用水路「十丁堰水路」の地域で打ち水の取り組みが行われています。

春日商店街では、雨水を雨樋から集める雨水タンクを設置し打ち水に利用しています。涼しさを演出する緑のカーテンづくり、打ち水イベントなども行われています。



写真は、春日商店街での打ち水イベントの様子

中心市街地活性化の一環として、中心市街地の商店街で、にぎわいづくりの取り組みが行われています。

商店街で行われるイベントも周辺地域の自治会をはじめとする各種団体と連携し、地域全体で取り組むものが増えてきています。



中心市街地の活性化を担う機関「茨木TMO」や商店街が中心になって、商店街でのにぎわいづくりイベントの開催などさまざまな取り組みが行われています。



写真は、阪急本通商店街での思い出の写真スライドショーの様子

身近なまちづくり事例③ まちかどの清掃



写真は、JR茨木駅東側商店街の清掃活動の様子

自分の家や店の前を自分たちで自主的に掃除をする「門掃き（かどばき）」という風習があります。

この「門掃き」を地域や商店街のみなさんが地域の活動として取り組まれています。

みなさんの力を合わせることで、きれいで気持ちよく使えるまちになっています。



JR茨木駅東側の「JR駅前商店会」と「茨木駅前本通商店会」の2つの商店街が協力し、商店が面している道路の清掃に取り組まれています。

地域での清掃活動として、この他に、安威川や大正川の清掃活動が行われています。

地域で取り組む行事



写真は、山手台校区のふるさとまつりの様子

地域で活動する自治会、子ども会、PTAでは、地域のみなさんが参加でき、楽しむことのできる行事の開催を続けてきています。

自治会など地域で活動する組織や団体は、親睦を図る行事の開催のほか、地域の防災や防犯活動、高齢者支援、子育て、教育など、身近なまちづくりを続けてきています。



「ふるさとまつり」「地区体育祭」「文化祭」などの親睦・交流行事、「祭礼」「地藏盆」などの地域の伝統行事を地域のみなさんが中心になって取り組んでいます。

まちの安全を守る



子どもたちの周りにある、犯罪や交通事故などから、地域ぐるみで子どもを守る活動が行われています。

また、大規模災害の発生時の被害を最小限に抑えるためには、地域住民が協力して、お互いに助けの手を差し伸べ、防災活動を行うことが必要になってきます。



子どもの安全を守るために、地域のPTAが中心になって、「茨木のこどもを守る運動」「子どもの安全見守り隊」の活動が行われています。

また、地域の防災活動として「自主防災組織」が自治会などを母体に組織化されています。

まちのルールをつくる



写真は、新大池地区の街並み

自分たちの住んでいるまちの環境を大切に守っていくために、地域の住民が主体となって、家の建て方などのルールづくりが行われています。

まちのルールづくりは、地域での話し合いからスタートし、「地区計画」などの法制度を活用したルールを定め、守っていきます。

まちのルールづくり（地区計画）については、36ページに解説があります。



茨木市では、25の地区で地区計画を決定しています。（平成20年5月現在）

平成18年に決定した新大池地区（大池二丁目の一部）の地区計画では、地区住民の発意から、自治会に設けられた「まちづくり委員会」を中心に話し合いが重ねられ、ルールが定められました。

身近なまちづくり事例の

まちを花いっぱいにする！！



写真は、中心市街地で活動する「花咲かせ隊」

まちを気持ちよく利用できるように、街角に花を植えてきれいにしようという「花いっぱい運動」が全国各地で取り組まれています。

地域の歩道や空き地などにプランターを置き、花壇づくりや花の世話を地域のみなさんが行っています。

活動は、園芸教室の実施や花壇へのクリスマスイルミネーションなどへと広がっています。



公園緑地課の「花と緑の街角づくり推進事業」の制度を活用し、自治会や草花の愛好グループが市と協定を結び、まちを花や緑できれいにしています。

「まちづくり」とは、みなさんの住んでいる地域をもっと暮らしやすく、魅力のある「まち」にすることです。

道路や公園などのまちの施設をつくること、まちの課題を解決する取り組み、まちの将来像を描きそれを実現していく取り組みなど、まちでの暮らしをより豊かにしていくことが、まちづくりです。

まちが健全な発展を続けていくためには、市民のみなさんが暮らしている地域に魅力を感じ、生活し、住み続けたいと思うような環境をつくりあげていくことが必要です。

この環境づくりは、みなさんが地域の抱える課題・問題の解決に向け、積極的に取り組んでこそ生まれるものであり、それがまちづくりです。

「まちづくり」は、行政だけが取り組むものではありません。地域に暮らすみなさんと一緒に考えていき、お互いの役割を確かめながら、取り組んでいくものです。

それぞれの地域に暮らしているみなさんのまちづくりへの想いが一番大切です。その想いを実現するためには、行政は地域と連携しながら、まちづくりに取り組んでいくことになります。

都市計画とは、まち全体をみなさんが住みよく、活動しやすい環境へと整備していくための計画です。

例えば、こんな事を考え、計画していきます。

「人の動きや物の動きをうまく処理するためには、どういう道路が必要か」

「憩いの場やみんなが集まる場は、どう作っていくのか」

「ここでは、住まいの場としての環境を守ろう」

都市計画では、以下の内容を定めています。

- ①土地利用に関する「市街化区域及び市街化調整区域」
- ②用途地域をはじめとする「地域地区」
- ③道路や公園などの「都市施設」
- ④良好な市街地を形成するための「市街地開発事業」
- ⑤地区の特性に応じた計画を定める「地区計画等」

都市計画は、法律(都市計画法)に基づき、市域全体のバランスを考えながら地域の特性を踏まえ、計画しています。また、隣接市を始めとする周辺都市との調和を図り定めています。

つなぐ つながる ひろがる まちづくりのポイント

まちづくりの始まりは、



一人ひとりの「想い」「気づき」から

まちづくりは、「こんなまちで暮らしたい」という「まちへの想い」や、「まちの変化や課題」をなんとかしたいという「まちへの気づき」が大切なきっかけになり、はじまります。

そんな一人ひとりの「想い」や「気づき」を、地域 みんなで考えていくことで、まちづくりは地域の活動として、広がっていきます。

こんな「想い」
や「気づき」
がまちづくり
のきっかけ

静かな環境を気に入っているの、
住み続けたい。

近くで買い物できたら、助かるわ。
(主婦の一人言)

息子夫婦と孫が戻ってくるような
まちにしたい。
老後のことも心配だし…。

緑が多いまちに暮らしたいね。
季節ごとに花が咲くとgood!

となりのまちはマンション増えてるけど、うちのまちもそうなるの？
日影とかちょっと心配。

近所のお母さん仲間、おしゃべりできるとこ欲しいよー!!

地震の時に、うちのまちは大丈夫かなあ？

最近、自治会活動への参加が減ってきてる。
何とかしたい!!

うちのまちは、子どもが少ないし、公園を年寄りを使いやすいようにできないかなー？

公園汚い!!
子どもに使わせられない。
よそからゴミ捨てに来てる。

道路が広がるみたいだけど、車が増えるのは困るな。
便利にはなるけどね。



暮らしの環境に変化が訪れた時

まちづくりに取り組むきっかけとして多いのが、暮らしの環境に変化が訪れた時です。

例えば、マンションの建設、道路拡幅などにより、まちの環境が大きく変わる時や、暮らしているまちの安全に不安になった時に、自分たちが暮らすまちへの「思い」や「気づき」が生まれます。



地域の活動に参加した時

既に地域で行っている活動の中から、新たな「思い」「気づき」が生まれることもあります。

地域で活動に参加することで、地域とのつながり、人とのつながりが深まり、新たな活動のきっかけになります。



仲間と出会った時

自分と同じ「思い」「気づき」を持った仲間と出会った時に、まちづくりに取り組むきっかけが生まれることもあります。



役立ち帳を手にとった時

そして、この役立ち帳を手に取り、まちづくりを身近なものと感じた時が、まちづくりとの出会いになればと願っています。



同じ想いの仲間を集める

まちづくりは一人でもできますが、一人よりは二人、三人と仲間を増やしていった方が、まちづくりを進める力も増し、進めやすくなります。

隣近所の知り合いや既に地域で活動をしている人に、自分の持っている、まちへの「想い」「気づき」を話してみることが、仲間を増やしていくきっかけになります。



できることから取り組む

最初から大きな活動に取り組むのは、参加するみなさんの負担も大きくなり、賛同できても参加できないという状況にもなりかねません。

まずは、簡単に取り組むことができ、活動内容が伝わりやすく、身近なところで、できることからスタートすることが、うまく始める方法です。



地域でまちづくりを考える

まちで暮らしているそれぞれが、色んな「想い」や「気づき」を持っていても、なかなか、地域で取り組むまちづくりへとはつながりにくいものです。

そんな時は、地域でまちづくりについて話し合う「ラウンドテーブル」や、「まちづくりワークショップ」を開催していく始め方があります。

また、地域で考え、つくっていく「地区別まちづくり構想」は、地域でまちづくりを考えていくきっかけとして活用できます。

まちづくりを進めていくコツは、

Point 参加のきっかけをつくろう！

地域みんなの参加を望むのは難しいことですが、できるだけ多くの参加を得られるように、決まった人以外の人でも参加できる取り組みを考え、参加の機会を増やすことが大切です。

Point いろんな活動と連携しよう！

地域の様々な活動と連携すると、活動の幅を広げること、多くの参加を得ることも可能になります。

Point 幅広い世代で取り組もう！

まちづくりを進めていく上で問題になるのが、次の世代へのバトンタッチができないことです。活動の主体がいつまでも同じ世代だけにならないよう、次の世代が参加できる活動を行い、次の担い手を育てることも考えておく必要があります。

Point イベントで地域みんなを集めよう！

イベントの開催は、活動のPRとして効果的だけでなく、地域で楽しむ機会をつくり、地域への愛着を深めてもらうきっかけづくりにもなります。

Point 活動内容を伝えよう！

地域のどこで、だが、どんな活動をしているかを地域のみなさんが意外と知らないことも多いです。地域のみなさんに知ってもらうために活動内容を伝えることが大切です。

全てのまちづくりに当てはまるものではありません。地域の目標や目指していく内容によって、進め方は様々です。

まちづくりを始める前にやっておきたい

まちづくりきあい

一人ひとりのまちへの「想い」や「気づき」から始まるのが、身近なまちづくりです。

まちへの「想い」や「気づき」を持つためには、日頃から、まちを歩き、まちを使い、まちを楽しむといった「まちづくりきあい」が大切になります。

「まちづくりきあい」を深めることで、まちの現状を知り、まちの良さに気づき、まちの変化に気づくことができます。人に出会い、まちへの気づきや想いを共有していくことができます。

そんな風に、「まちづくりきあい」を深めることで、まちを好きになり、まちのことを身近なこととして考えていき、まちへの「想い」や「気づき」を持つことにつながっていくのではないのでしょうか。

まちづくりきあいが少ないと、まちづくりを考えるにも、実感が湧いてこないと思います。

市民の方と一緒に考えた都市計画マスタープランの「まちづくりビジョン」や「行動規範」は、そんな「まちづくりきあい」を大切にしたものとなっています。

まちづくりきあいを深めるのは、そんなに難しいことではありません。とても簡単なことから始めることができます。



まちづきあいを深める散歩のススメ

まちづきあいを深めるには、身近なまちを散歩することが効果的です。

例えば、こんな感じで散歩をすると、まちづきあいが深まります。

まちのあちこちに行ってみる

ちよつと遠回りしてみるだけで、いつもとは違うまちの姿を発見できます。

まちの施設を使ってみる。

まちの乗り物を使ってみる。

まちのお店で買い物をしてみる

まちの施設や乗り物、お店はどんな人が利用し、どんな役割を持っているのかを知ることができます。

友達や家族と一緒に出かけしてみる。

自分だけでは気づかないことや、友達や家族が大切にしている、まちへの想いに気づくことができます。

いつも車で出かけてばかりでは、まちの姿も見えにくいはずです。たまには、歩いて近くの公園に出かけたり、バスに乗って出かけたりして、いつもとは違ったまちの姿に出会ってみましょう。

そして、まちの人に出会ったら、あいさつをしましょう。まちの人と仲良くなるのも、まちづきあいの一つです。



身近なまちづくりは、地域に暮らすみなさんが感じている「思い」や「気づき」を、地域のまちづくりへとつないでいく、地域が主体となるまちづくりです。

地域主体のまちづくりとは、「地域のことは、地域で考え、地域で取り組んでいく」という考え方で進める、暮らしている地域をもっと暮らしやすくしていく活動です。

まちづくりを考え、そしてそれを実現させていくのも地域に暮らすみなさんです。地域で取り組めることは地域で対応し、地域で対応できないことについては、市と調整しながら進めてく必要があります。

みなさんが暮らしている地域には、自治会、子ども会、婦人会、PTA、NPO^{*}、商店街、企業など、いろんな組織や団体が活動を行っています。地域主体のまちづくりは、新たな組織や団体を作って進めていく方法もありますが、これらの組織や団体と連携しながら進めていくことも大切になってきます。

※NPO…社会的使命を果たすために、営利を目的としない民間の活動組織。

都市政策課では、地域のみなさん方とともに、地区別まちづくり構想の作成に取り組むなど、地域主体のまちづくりを進めていくことにしています。

まちづくりに関わる

七つ道具!

まちづくりを進めて行くと、
いろいろな場面に出逢います。
その時々で何かと役立つ道具を
紹介します。



1 まち歩き



知りたいとき



2 イベント



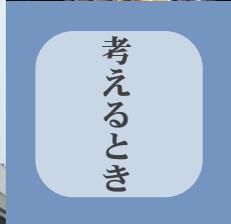
ひろげるとき



まとめるとき



3 ラウンド
テーブル



考えるとき



4 市民に
役立つ所



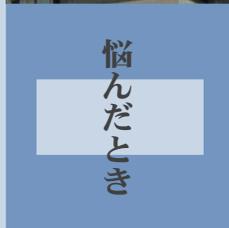
5 ワーク
ショップ



伝えるとき



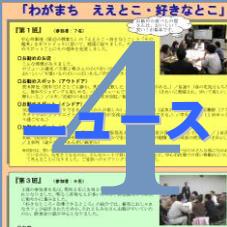
6 専門家



悩んだとき



集めるとき



7 フェイス



始めるとき



まちづくり
役立ち帳

1 まち歩き

始めるとき 集めるとき

